

志田塗装 虚実の皮膜

酒井一吉 | 志田塗装一虚実の皮膜
2022年2月19日[土] - 3月20日[日]
アズマタイププロジェクト

開場: 土日のみ 2月19日(土)、20日(日)、26日(土)、27日(日)
3月5日(土)、6日(日)、12日(土)、13日(日)、19日(土)、20日(日)
時間: 14:00-18:00
会場: 横浜市中区長者町7-112 伊勢佐木町センタービル3F



酒井一吉 志田塗装—虚実の皮膜

2022.2.19 sat - 3.20 sun

私がアズマタイププロジェクトの隣に借りた部屋には、入口に古びた建てつけの悪いシャッターがあり、その薄汚れた鼠色のスラットには黄変した白ペンキで「志田塗装」と書かれていた。室内は時が止まっているかのような昭和の空気をまとい、天井と壁は亜麻色に、床から腰高までは胡桃染にと二色に塗り分けられている。壁にはところどころ焦茶色の旧塗膜も残っており、塗り替えの痕跡から使われていた棚や事務機の残影が見て取れる。塗装とは、気分を一新するためや、建造物を劣化から保護し生活環境を衛生的に保つために行われる人間の営みである。巨視的にはその行為が風景になり、都市を形作っている。

ここ横浜は近代塗装の発祥の地と云われ、開港とともに西洋式塗装技術が輸入された歴史を持っている。あるとき大家さんに何気なく志田塗装について尋ねたところ、志田塗装という事業者が過去に入居していた事実はないと云う。予想だにできなかったその一言に、私は愕然とした。

穂積以貫の『難波土産』中には、近松門左衛門の芸論「虚実皮膜論」を解説してこう記されている。「(近松答曰) 藝といふものは實と虚との皮膜(ひにく)の間にあるもの也。[...] 藝をせば慰(なぐさみ)になるべきや。皮膜(ひにく)の間といふが此也。虚にして虚にあらず、實にして實にあらず、この間に慰(なぐさみ)が有たもの也。」

本展では、見えていたはずの感覚を手がかりに志田塗装を演じることから展覧会を構成し、現代の新たな虚実の皮膜の構築を試みる。

美術家 酒井一吉



《存在と所有》2021

酒井一吉 Kazuyoshi Sakai

1985年長崎生まれ。2008年東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域卒業。被爆地ナガサキに一定期間に残存した被爆遺構「旧浦上天主堂」を現天主堂の壁面に原寸大の映像を投影し再現する『浦上天主堂再現プロジェクト』(2015)や同郷の彫刻家北村西望作『平和祈念像』に扮し、西望ゆかりの地を赴く『平和祈念像パフォーマンス』(2015)など社会制度や文化的慣習との関わりの中で、場の形成と当事者性の獲得をテーマにプロジェクトを展開している。2020年よりアズマタイププロジェクト参加。

志田塗装

<https://shida-toso.com>



Kazuyoshi SAKAI Website

<https://kazuyoshi-sakai.com>



新型コロナウイルス感染拡大の状況により、実施内容が変更となる場合があります。ご来場前にウェブサイトにて最新情報をご確認下さい。新型コロナウイルス感染予防のため、以下についてご理解下さい。

●発熱がある方、風邪の症状がある方、体調が優れない方はご来場をお控え下さい。●マスクの着用と入場時の

手の消毒にご協力下さい。●スタッフはマスクを着用して対応させていただきます。●換気のため窓を開けております。●大人数でのご来場はお避け下さい。●他のお客様との間隔をなるべくあけてご鑑賞下さい。



MAP

アクセス

〔JR関内駅〕北口イセザキモールを直進600m

〔京浜急行 日ノ出町駅〕長者橋を渡って直進400m

〔市営地下鉄 伊勢佐木長者町駅〕出口6A 300m

「元祖中華つけ麺大王」左手の緑色の階段をのぼり三階へ

アズマタイププロジェクト

〒231-0045 横浜市中区長者町7-112 伊勢佐木町センタービル3階

<https://azumateipproject.com>

